

日本防災士会 千葉北

第 25 号 (発行日：2016 年 7 月 1 日)

3・11 を忘れない！ 地域住民参加の「防火・防災のつどい」

3月5日(土)、6日(日)の両日にわたり「防火・防災のつどい実行委員会」の主催により東京都世田谷区桜丘区民センターで開催されました。北部支部は防災士会首都圏支部連絡協議会、東京都支部、東京都支部多摩ブロック、東京都江戸川支部、BCN※¹などと共に協力団体として参加しました。桜丘区民センターの運営協議会事務局長で今回行事の実行委員会事務局を務めた北部支部の谷防災士(副支部長)から北部支部に協力依頼があったもので、合計約 60 名の防災士などが協力スタッフとして活動しました。

桜丘区民センターは年間約 10 万人の区民が利用し、地域住民が集う地域の重要な活動施設です。この施設を活用し、東日本大地震から 5 年目の節目の本年、春の火災予防運動実施期間に合わせて、各種防災講演、地域防災リーダーの養成研修、防火・防災教室、防災展示活動などを 2 日間にわたり集中的に開催し、地域の防災意識を高め防災力を強化することを目的として企画されました。このような規模の大きい防災行事は同センターとして初めての試みで、実行委員会には桜丘区民センター、桜丘町会、桜丘南町会、世田谷消防署、地元消防団、世田谷総合支所地域振興課・防災担当・まちづくり担当・まちづくりセンター、商店街振興組合、NPO 桜丘まちづくり、小中学校、区児童館、区図書館などの関係者が参画し、日本防災士会各支部と日本公衆電話会などが協力しました。



講演「自然災害から身を守ろう」

主な内容は以下の通りです。

- 防火・防災講演会
- 小・中学生の防火・防災サバイバル塾
- 家族を守る防火・防災対策
- 防災リーダースキルアップ研修会
- 防災士による防火・防災教室
- 地震体験車による震度 7 クラスの疑似体験
- 世田谷消防団の活動 PR



ブルーシート張り講習



地震体験車による震度7クラスの疑似体験



災害用伝言ダイヤル171の体験訓練



講演「災害用備蓄品」



ロープワーク訓練



講演「東日本大震災から5年」



家具転倒防止器具等展示説明

- 防火・防災訓練(共助による救出・救護・炊き出し)
- 災害用伝言ダイヤル171の体験訓練
- 家具転倒防止用具・防災用具・災害備蓄品等展示

広い施設をフルに活用して各種講演、講習、訓練、展示活動等が同時進行で行われました。カリキュラムは一つひとつが良く吟味工夫され、様々な角度から災害の怖さと防災の大切さを分かりやすい言葉で親しく語りかける内容で、防災の予備知識が少ない人にも抵抗なく受講や体験・見学が出来るものとなっていました。社会の高齢化が進み児童・生徒への防災教育の重要性が増す中、分かりやすく親しみを持って防災を語ることが、今後益々大切になってくると思われま

講演、講習のいくつかを紹介します。

1) 「防災士に挑戦！クイズ」(防災士会江戸川支部)

参加者で 5～6 名の即席のチームをいくつか作り、チーム内で相談して回答を決めるといふ、クイズのルール説明があり「皆で相談して決めるという訓練が災害時に役立ちます」との講師の言葉に、「なるほど！」と納得してクイズゲームがスタート。



防災士に挑戦！クイズ

- クイズ例 1「空に浮かんだ一片の雲、重さはどれ位あるでしょう？」と映像で出題。①「象が 2 頭分」②「風船 2 個分」のどちらから答えを選びます。チームの答えが発表されると、講師は「理由は？」と尋ね着眼点を必ずほめます。これがモチベーションを高めると同時に、異なった考えを認め合うことの大切さを学びます。このクイズの正解は①で、雲の様子から雨の量がイメージ出来るようになります。
- クイズ例 2「竜巻のレベル F0～F5 の F の意味は？」に対し、①「ファーストの F」②「フジタさんの F」の 2 択。正解は②です。「フジタさん」とは、米国シカゴ大学教授で気象学者の藤田哲也さんで、F(フジタ) スケール^{*2}として世界中で使われています。

クイズは大人も子供も楽しめる面白さの中に啓発される情報を含んでおり、良く考えられた設問と回答選択肢であると思われました。

2) 「防災リーダースキルアップ研修」(防災士会本部)

高野甲子雄講師(元東京消防庁特別救助隊長)
が 1982 年 2 月に起きたホテルニュー
ジャパン火災事故での救援活動の映像などを
示しながら講演しました。広い会場が埋
まる盛況で防災リーダーにとって有意義な研
修になったと思われます。



防災リーダースキルアップ研修

印象に残るポイントのいくつかを紹介します。

- 現場リーダーの心得は自分を落ち着かせるために大きな声を出すこと。目の前の状況を自分が見て、触って、感じて、聞いて、何をするかを決めること。
- 結果に完全は無。60%でよしとすること。
- 火災はフラッシュオーバー^{*3}が起こる(火災発生後約 10 分)前に助けないと、中の人は熱風で死ぬ。
- 消火器放水は必ず姿勢を低くして行う。立ち姿勢では炎がブーメランのように顔面を襲う。消火器は多く並べて一斉放水するのがベスト。
- 災害は怖がること。2014 年の韓国地下鉄火災では誰も率先して逃げなかった。それを見

て「まだ大丈夫」との集団心理が生まれ全員が逃げ遅れ犠牲になった。

3) 「市民トリアージ」※4 ってな〜に (防災士会東京都支部)

「首都直下型地震発生時に世田谷区では負傷者が約 7,400 人、その内重傷者が約 1,400 人と予測されています。病院は命にかかわる重傷者の受け入れを優先したいが、誰がこれを区分するのが問題となります。重傷かどうかは負傷者自身では決められません。行政や医療関係者だけでは、対応する人員が足りません。市民によるトリアージの考え方がここから生まれました。」と問題認識を促す講師の話に導かれながら「市民トリアージ」について理解し、考える場となりました。また世田谷区内にはヘリコプターが離発着出来るスペースがないことや、建物の倒壊や家具の転倒で 1,800 名以上の自力脱出不可能者が出る、などの予測が紹介され、参加者は直下型地震発生時の世田谷地域の災害状況を、よりリアルなものとしてイメージできたと思われま



講演「市民トリアージってな〜に」

てイメージできたと思われま

カリキュラム表を見ながら少しでも多くの知識を得ようと会場を回る地域住民の姿が印象的で、広く地域に公開した形での防災行事の開催は防災について考える有意義な機会になったと思われま

※1 BCN：防災コミュニティネットワーク

※2 F(フジタ)スケール：竜巻などの激しい突風をもたらす現象は、水平規模が小さく、既存の風速計から風速の実測値を得ることは難しい。そのため、竜巻などの突風により発生した被害の状況から風速を大まかに推定するために考案されたもの。日本では F4 以上の竜巻は観測されていない。なお、日本の建築物などの被害に対応できるよう、2016 年 4 月からは日本版改良フジタスケール(JEF スケール)が導入された。

※3 フラッシュオーバー：爆発的に延焼する火災現象。室内で火災による熱で可燃物が熱分解し、引火性のガスが発生して室内に充満した場合や、天井の内装などに使用されている可燃性素材が輻射熱などによって、一気に発火した場合に生じる現象。

※4 市民トリアージ：はじめに、「トリアージ(Triage)」とは、災害発生時などに多数の傷病者が同時に発生した場合、医師、看護師、救急救命士が傷病者の緊急度や重症度に応じて適切な処置や搬送を行うために治療優先順位を決定すること。語源は「選別」を意味するフランス語の「triage」。「市民トリアージ」は、これと大きく異なる。現場で市民が判断し、救護所に運ぶ人と病院に運ぶ人を分け、必要に応じて応急手当も行う。救護所でも病院でも医師が再度トリアージするので問題はなく、大災害時にはこの市民の判断が、拠点病院

の大混乱を防ぐ大きな力につながる。災害直後の生き埋めの救出、けが人の応急手当や搬送は市民の私たちにもできる大切な「共助」のひとつ。正しい救出方法、正しい応急手当と一緒に習得することで「市民トリアージ」の効果が高まる。日本防災士会では、2016年7月24日(日)、8月14日(日)タワーホール船堀で、静岡市NPO法人「災害・医療・町づくり」の理事長を招き、「市民トリアージ講座」を開催する。現在このような活動は、今治防災士会、三島市防災士会でも行われている。

船橋市立湊中学校 救命講習

5月16日(月)、2学年と3学年生徒と教職員および地域住民の代表など約280名を対象に行われた救命講習に北部支部として協力しました。2015年11月に同校で行われた「1000年後の命を守る対話集会」と本年1月の防火・防災訓練に北部支部が協力したことから湊中学校との連携が深まり、今回の救命講習の協力依頼となりました。

湊中学校は千葉県から「いのち・こころ・人とのつながりを育む」健康教育の研究校に指定されており、その一環として地域防災教育に力を入れています。訓練は一般的なものに留まらずより実践的な内容を取り入れ、災害発生時に地域の役に立てる知識と技能を生徒が卒業までに身に着けることを目標にしています。太田校長は「避難所設営のために必要な機材の組み立てや心肺蘇生法、AEDの使い方などをマスターし、生徒が助けられる側から助ける側になれるよう今後も訓練を続けて行きたい」と抱負を語っています。

今回の講習は「そばにいる私だからできること～かけがえのない命を救うために～」のテーマを掲げ、一次救命処置として胸骨圧迫と人工呼吸の実技、AEDの使い方を学びました。これには北部支部を中心に東京都支部、東京都支部多摩ブロック、千葉県技術支援チーム、BCNが協力し防災士など19名が指導員として参加しました。1班4名編成の15班集体で各班に指導員1名が付きマンツーマンで実技習得のアドバイスをを行いました。1講習約50分で5回の講習を行いました。教職員などを対象とした講習ではエピペン^{※1}の正しい理解と使用法を学ぶ講義も加えました。

講習では、はじめにバイスタンダーCPR^{※2}の重要性を伝えるため「あなたにしか救えない大切な命」の映像を上映しました。そのストーリーに感動して涙ぐむ生徒もあり、その後の実技講習に皆、真剣に取り組んでいました。まだ身体が小さく十分な圧迫を加えることが困難な生徒もいましたが懸命に挑戦する姿からは、「いざという時に命を救う人になるための大切な講習なのだ」という講習の目的が生徒一人ひとりによく理解されていることが窺えました。

講習方法は「大多数の一斉救命講習」という考えから「Practice while watching(見ながら練習)法」を実施しました。これは実技指導のDVD映像を見ながらそれに合わせて受講者全員が同時に実技練習を進めてゆくやり方で、救命講習の有効な手法です。受講者は講師のやり方ではなく映像で示された模範実技を唯一の手本としてやり方を学びます。これは個々の講師の技量や癖



生徒への胸骨圧迫の実技講習



教職員への人工呼吸の実技講習

によって、受講者の習得内容が異なってしまうことを防ぎ、講習の質と成果を均一の高いレベルに保つことを目的とした優れた教育方法と言えます。

以下に紹介する生徒達の感想文に今回の講習の成果を窺うことが出来ます(順不同)。

- 誰か倒れた時、自分から行動したいと思った。
- 映像で説明してもらいとても分かりやすかった。指導員のアドバイスもとても分かりやすかった。
- 人工呼吸ではキューマスク^{※3}を付け実際に呼吸を送る体験が出来て良かった。
- 1班に指導員が1人ついてくれたので分からないことが何でも聞けて良かった。
- 家族や身近な人が倒れたら自分が助けようと強く思った。
- 自分が命を救う事ができるのだと実感した。
- 命を救うためには勇気をもって一刻も早く行動することが必要だと分かった。
- キューマスクをいつも持ち歩いていざという時に対応出来るようにしたい。
- 映像のお手本を見ながら一緒に実技をやるのでとても分かりやすかった。
- 胸骨圧迫の大事なポイントや大切さが分かった。
- 授業でやらないようなことを教わった。AEDで救命率が上がることが分かった。
- 「あなたにしか救えない大切な命」の映像にとっても感動し意識が変わった。
- 自分も命を救える人になりたい。その為に一歩踏み出す勇気を持ちたい。

※1 エピペン：アナフィラキシー症状を一時的に緩和しショックを防ぐための補助治療剤（アドレナリン自己注射液）のこと。アナフィラキシー症状とは特定の物質に対する重篤なアレルギー反応で、気道が狭まり呼吸困難に陥ったり血圧が低下し命にかかわることもある。教育現場などで児童生徒がアナフィラキシーショックで生命の危険がある場合、自ら注射できない本人に代わって教職員がエピペン注射を行うことが一定の要件の下で認められている。保育士についても同様。

※2 バイスタンダーCPR：救急現場に救急車が到着するまでの間、偶然そばに居合わせた人（バイスタンダー）が一刻も早く心肺蘇生法（CPR）などの一次救命処置を実施すること。傷病者の救命率や社会復帰率向上のために、とても重要なこと。

※3 キューマスク：口対口の人工呼吸時に使用する感染防護具。一方弁が付いている。傷病者

の口にあて、唾液や吐物などによる感染を防護するもの。

習志野市本大久保1丁目町会防災フェア

5月22日(日)、習志野市本大久保1丁目町会(以下「本一町会」)の主催で「防災フェア」が開催されました。これには北部支部がBCNと共に協力しました。

本一町会の自主防災組織は優れた活動を続けており、これまでに総務省の「まちづくり大賞」、「千葉県知事賞」などを受賞しています。北部支部の筒井防災士が組織の防災部長を務め、中心者の一人として活動しています。

本一町会は町内人口800人、建物棟数250棟で、防災活動を推進する防災協力員115名が選任されています。特筆すべき点は向こう三軒両隣で構成する「共助活動ブロック」がセーフティネットワークの単位(細胞)となり、各ブロックに防災協力員1名もしくは数名が防災活動推進者として配置されていることです。町会内に均等に設置された消火器の消火守備範囲は「共助活動ブロック」に対応し、消火器の格納箱の中には当該ブロックの構成員の「安否確認表」が保管されています。災害発生時には防災協力員が「安否確認表」をもとに速やかにブロック構成員の安否確認を行います。防災協力員は普段から「共助活動ブロック」内の交流を大切にし、災害発生時にセーフティネットワークが有効に機能するよう努めています。

防災フェアでは町会の集会所と屋外を使用して様々な展示と体験のコーナーが設けられ、活発な防災啓発活動が展開されました。以下に主な内容を紹介します。

① 安否確認体験コーナー

- ブロックごとに担当する防災協力員が各戸を巡回して安否を確認します。
- 安否確認は消火器箱に保管されている「安否確認表」をもとに行います。
- 災害発生時不在者については更に所在の確認を進めます。

② 地震体験車による地震体験コーナー(BCNが担当)

BCNの地震体験車により震度6強の揺れを体験。体験参加者には「地震体験認定証」が手交されます。

体験参加者からは次のような感想が聞かれました。

- 揺れの時間が長く感じられ怖かった。安全体勢はなかなか取れないもの。揺れが始まったらどうすべきか、家にいたらどうすべきかを考えたい。(50代男性)



地震体験車



家具転倒防止器具の展示・説明

- 震度6強でこんなに揺れるとは！食器棚のガラスやお皿が落下して割れるのにショック、落ち着いて対策を考えたい。(70代女性)
- 転倒物や落下物から身を守る場所を直ちに確認し、頭を守る姿勢を素早く取りたい。帽子はいつも持ち歩くようにする。(小学6年生)
- 家具転倒防止対策コーナーで対策を勉強したい。(子供2人と父親)
- 地震体験車は防災の心を育てる上で素晴らしい効果がある。

③ 親子の防災教室コーナー

「地震で電気・ガス・水道が止まったらどうする？」のテーマを掲げ、どの家庭にもある日用品の食用油とティッシュペーパーなどを材料にした手作りランプの作成に挑戦。指導員のリードで、お父さん、お母さん、子供達が一緒に取り組んでいました。

④ 家具転倒防止対策コーナー（北部支部が担当）

この分野の技術や製品は日進月歩ですが、展示コーナーではこうした技術情報が的確に集約され、実物、ミニチュア、パンフレットなどを使い目で見て分かるように展示されていました。説明員は次々に相談に来る住民個々の疑問やニーズを把握した的確な説明を心がけ、大変好評を得ていました。本コーナーは地震体験車の隣に設けられ、地震体験をしてから家具の安全対策を考えるという大変効果的な流れが作られていました。

⑤ 防災資器材の在庫展示と用途確認コーナー

防災倉庫に保管されている主な防災資器材が用途別に展示され、その使用方法が防災協力員により説明されました。保管されている物品の品目と数量は用途別に整理されリスト化されています。

- 救出用具：のこぎり、チェーンソー、ハンマー、バール、カケヤ
- 夜間照明用：携帯発電機、照明器具
- 負傷者搬送用：担架、リヤカー
- 避難所用：簡易トイレ、ルームテント簡易トイレ、テント、リヤカー

この他に、災害時の必需品備蓄コーナーでは、アレルギー体質の家族を持つ家庭向けに、管理栄養士によるきめ細かな指導が行われました。また本一町会の自主防災活動の取り組みを紹介するコーナーが設けられ、説明員による懇切丁寧な説明があり、新たな防災協力員の募集が熱心に行われていました。

今回の防災フェア開催について運営事務局担当者は「私達の地域防災の考え方と日頃の活動の

内容をまとめて紹介したものです」と控え目に語っていましたが、地域防災活動の大切な原点を学ぶことが出来る大変に有意義な催しでした。

「船橋市平成 27 年度防災女性モニター」に参加して

青山 久子

船橋市では、女性の視点を防災対策に活かすことを目的に、防災女性モニターが平成 26 年 8 月に設置されました。北部支部から推薦を受け平成 27 年 7 月から平成 28 年 3 月まで活動に参加しました。

女性モニターは防災や危機管理、医療や福祉、地域活動など様々な分野の代表メンバー 10 名で構成され、船橋市長の委嘱を受けてスタートしました。

平成 27 年度の活動の目標は、災害時の避難や避難生活において配慮が必要となる妊婦や乳幼児を持つ家庭に向けた防災ハンドブック(子育て防災手帳)の作成で、月 1 回のペースで合計 7 回(1 回につき約 2 時間)の会議を持ちました。その他に避難所宿泊訓練、総合防災訓練、船橋市防災フェアへの参加も行い、『パパママ子育て防災手帳』(母子手帳と同サイズ、全 34 ページ)を出版社の協力を得て完成させました。この子育て防災手帳は今後母子手帳と共に配布されることとなります。

作成に当たってはメンバーがそれぞれの立場から自由に意見を出し合い、防災の基本として必要な自助・共助や命を守るための心構えを確認し、備蓄品、携行品などについて必要な情報をまとめました。また子育て世代で特に配慮が必要な幼稚園・保育園などとの連携、ミルクや離乳食、口腔衛生、おむつ・トイレ、母親たちの癒しといった面についても対応策をよく話し合いました。紙面の配色や使用するイラスト、手帳全体のトーンは子育て世代に親しまれ読みやすいものになるように工夫しました

完成した『パパママ子育て防災手帳』の主な内容は次の通りです。

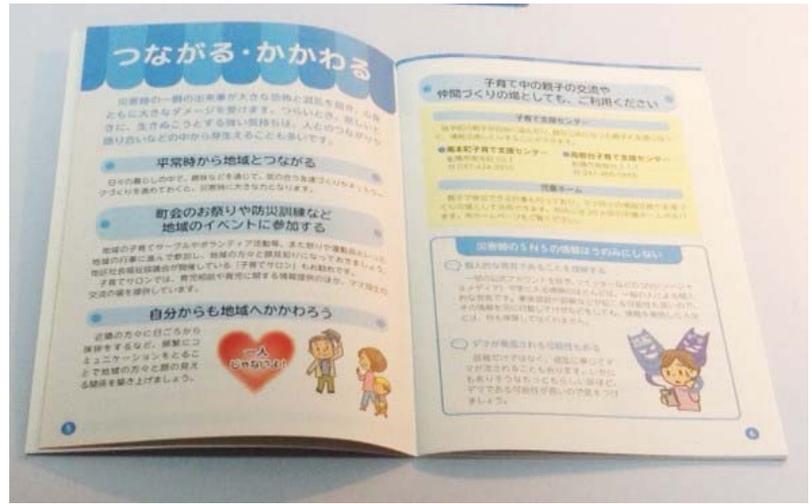
- 船橋市で地震が起きたらどうなるの？
- 地区別の危険度を知っておこう



船橋市長からの委嘱状交付式



モニター会議



「パパママ子育て防災手帳」の(左)表紙と(右)本文の一部

- つながる・かかわる
 - 平常時から地域とつながる／町会のお祭りや防災訓練など地域のイベントに参加する／自分から地域へかかわろう／子育て中の親子の交流や仲間づくりをしよう／災害時の SNS の情報はうのみにしらない／船橋市の防災情報を入手しよう／家族との連絡方法を確認しよう
- 備える
 - 普段からやっておくこと／家の中の安全対策／家庭内備蓄のポイント／日常品の災害時の活用法
- 守る
 - 地震発生！そのとき、家の中にいたら／地震発生！そのとき、外出していたら／避難する・しないの判断ポイント／地震発生時の避難チャート／安全に避難するために／自宅にとどまる／幼稚園・保育園など預け先との連携／災害時の子供のメンタルケア
- たべる
 - ミルクについて／離乳食について／妊婦(ママ)の分も忘れずに／お口の衛生を忘れずに
- おむつ・トイレ
 - おむつについて／携帯トイレを用意する／おむつかぶれ対策／レジ袋とタオルで代用おむつをつくる／その他
- ママのために
 - ママたちのメンタルケア／被災したママの声
- チェックリスト
 - 持っていくもの・備えるもの
- 家族の防災カード

今回の防災女性モニター活動においては船橋市市長公室危機管理課の全面的なバックアップを得て、議論の方向付けや様々な資料を提供して頂きました。また、編集・印刷担当の東京法規出版には議論のポイントを整理抽出し、必要な情報を盛り込んだ見やすく親しみのある手帳に仕上げるためにご尽力頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。またメンバーの献身的な努力には心より感謝しています。優秀な防災女性モニターメンバーとの交流で多くのことを学

べたのは大変に幸運でした。今回の活動を通じ、他の自治体や団体から子育て世代向けの優れた防災冊子が発行されていることを知りました。この度は船橋市独自の『パパママ子育て防災手帳』が初めて誕生したことを心から嬉しく思います。

この手帳により子育て世代が防災に関心を持ち災害に備えるきっかけとなり、将来において万一被災した際の力となり支えとなれば幸いです。

北部支部総会開催

北部支部の平成 28 年度定期総会が 4 月 24 日(日)船橋市中央公民館で開催されました。委任状を含めて 38 名の参加を得て総会が成立し、以下の第 1 号議案から第 5 号議案までが審議され、すべて提案通り承認されました。

- 第 1 号議案 平成 27 年度事業活動報告
- 第 2 号議案 平成 27 年度会計報告
- 第 3 号議案 平成 28 年度活動計画(案)
- 第 4 号議案 平成 28 年度予算(案)
- 第 5 号議案 役員等補選(案)

平成 27 年度の事業活動報告では広報活動、知識習得とスキルアップ訓練、地域防減災力向上支援活動などの各分野において、活発な活動がなされたことが報告されました。防減災力向上支援活動では大学祭や小中学校の防災行事などへの初めての参加を含む合計 20 件の支援活動が行われました。

平成 28 年度の活動計画ではホームページの開設を含む広報活動の更なる活発化、スキルアップ訓練の継続と充実、教育機関にも対象を広げた地域防減災力向上のための支援活動の推進などが提案され承認されました。

また、次の 2 名の方が新たに支部幹事として役員に任じられました(敬称略)。

- ・ 岩下裕二
- ・ 平山優子

総会の後、北部支部会員であり気象庁気象大学校の教官として勤務する岩下防災士が記念講演を行い、「アメダスによると千葉県香取が 1 時間降水量の日本記録」であることが紹介され、隣で起きていることは自分にもやがて起きる可能性があると考えるような想像力を持つことが大切で、「危ない！」と思うことが防災の第一歩であり、新しいことを勉強し理解することで怖がらずに事態に対処する力が生まれてくると語り、学びの大切さを強調しました。

また、この後行われた懇親会は新しいメンバーを含めて交流し抱負を語り合う場となりました。



支部長開会挨拶



出席者で記念撮影

♪ 北部支部会員さん 紙上インタビュー ♪

岩上 弘子さん



Q. 出身地と自己紹介をお願いします。

A. 徳島県出身の家庭の主婦です。

Q. これまでのキャリアを教えてください。

A. 学校卒業後、自動車メーカーに就職、その後出産育児を経て会計事務所に税理士として勤務しました。定年は特になかったのですが自ら定年を設定し退職しました。

Q. 特技、資格、得意なことは何ですか？

A. 特技は皆無です。カラオケなど自分ではうまく歌っているつもりですが絶対音痴だそうです。スポーツも同様です。資格は気象予報士、防災士です。

Q. 防災士になったきっかけは？

A. 気象予報士資格取得後、災害対策について必要性を感じたため。

Q. 今、何か防災活動に取り組んでいますか？

A. 地域が防災活動に熱心なため、特にリーダーのような役はしていませんが各行事にはできるだけ参加しています。

Q. 身の回りの防災でやっていることは？

A. 家具の転倒防止、棚からの落下防止、飲料水等の確保程度です。

Q. 東日本大地震で経験したことは？

A. 当時、会計事務所に勤務していました。人的被害はありませんでしたが所得税の確定申告山場の時期で作業が大幅に遅れました。ガソリンを求める車列のため出勤できない日もありました。自宅の1Fは食器数枚の被害に止まりましたが、2Fは各室の本棚から本がすべて落下し食器棚はほぼ全滅となりました。部屋中に食器の破片が散乱しいくら掃除をしても終わらず、疲れ果てました。

Q. 今、はまっていること、熱中していること、趣味など教えてください。

A. インターネットラジビジョン「お天気タネ」という番組に時々出ています。

また8月に行われるハードルの高い試験に挑戦中です。趣味は食べることを主目的としたタウンウォッチングです。

Q. 北部支部の活動に期待すること、取り組んでみたいこと、ご意見など聞かせて下さい。

A. 今年は支部の会合出席が減り交流が少なくなりました。試験が終わる秋頃からは積極的に参加したいと思っています。

Q. 防災士としての自己アピールをお願いします。

A. 気象の知識を生かした防災活動をしたいと考えています。

♪ 北部支部会員さん 紙上インタビュー ♪

竹内 哲志さん



Q. 出身地と自己紹介をお願いします。

A. 学校卒業まで東北の仙台に住んでいました。工学系を専攻し卒業と同時に上京し最近 25 年間は千葉市に住んでいます。最近初孫が生まれました。

Q. これまでのキャリアを教えてください。

A. 通信系の会社に就職。高度成長の余韻が残る時期で今では許されないほど長時間働きました。通信は社会インフラとして停止させないよう対策・行動が業務で徹底されており、防災の考え方の基礎として今役だっています。

Q. 特技、資格、得意なことは何ですか？

A. 仕事関係で電気通信、情報処理、知的財産関係の資格を取りました。

Q. 防災士になったきっかけは？

A. 3 年前に会社の防災担当になったことです。特に地域防災の勉強をしようと思い防災士になりました。そしてタイミングよく北部支部から加入のお誘いがあり皆様と一緒に活動することになりました。

Q. 今、何か防災活動に取り組んでいますか？

A. 職場では仕事として防災に取り組んでいますが地域はこれからです。

Q. 身の周りの防災でやっていることは？

A. 出来るだけ避難所に行かずに済むようにと考え家の防災対策を心がけています。

Q. 東日本大震災で経験したことは？

A. ビルの 13 階にいましたので大きく揺れ、こんなに揺れてもビルは大丈夫なのだ実感しました。その晩は会社泊となり会社から非常食が出され、しっかり準備してあることに感心しました。

Q. 今、はまっている事、熱中している事、趣味など教えてください。

A. 初めてキュウリを植えましたので実がなるか楽しみです。最近日本画に興味を持ち、「伊藤若冲展」を見ようとしたら 500 分待ちというのであきらめました。音楽を聴くこと、特にクラシックが好きです。

Q. 北部支部の活動に期待する事、取り組んでみたい事、ご意見など聞かせて下さい。

A. 今の活動を継続していけば北部支部は更に活発になると思います。皆様の努力に感謝しています。その一助になればと思い出来ることは進んで行動しようと思っています。

Q. 将来の夢をお聞かせ下さい。

A. 仕事を辞めた後も北部支部の皆様のように元気で活動したいですね。

***** お知らせ *****

第3回そら博(SORA EXPO 2016)が8月5日(金)～7日(日)の3日間にわたり千葉市幕張メッセで開催されます。北部支部は昨年の初参加に続き今年も参加いたします。そら博は、株式会社ウェザーニューズが主催する世界最大のお天気コミュニティーの祭典で、来場者参加型の様々な企画が数多く行われます。昨年、北部支部は千葉県防災士技術支援チームに協力し、BCNと共に地震体験車による震度6強の疑似体験、応急手当(胸骨圧迫とAED)講習などを行いました。来場者数は13,000名を超え、夏休みの研究テーマ探しの子供達やその家族、幕張メッセを訪れた若者達などで賑わい、将来を担う若い世代に防災の大切さをアピールすることが出来ました。今年の参加内容はこれから検討し決定しますが、昨年と同様に出来るだけ多くの皆様に協力スタッフとして参加していただきたいと思えます。



昨年のそら博の様子(左)地震体験車、(右)胸骨圧迫講習

編集後記

広報担当が新たに加わって初めての会報になります。皆様の交流の場が広がり、また、皆様の防災知識・技術のレベルアップに少しでも貢献できるような会報誌を目指しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今後は、紙上インタビューだけでなく、防災士一人ひとりの活動も掲載したいと思っています。活動の記録は、防災士同士の情報交換だけでなく、記録を残すことで自分自身を振り返ることができますし、さらには子孫に知識・技術を継承することができ、まさに「一石三鳥」です。

・・・皆様の活動も、記録に残してみませんか？

広報担当： 黒田哲司 藤下進 茂木宏 平山優子 岩下裕二

事務局の連絡先： 飯岡孝 (taka.ioka@gmail.com)